

白龍と生きるまち

こんこんと水が湧く池から、
大きな白龍が出現――

湯けむりの中で戯れる白龍
が夢枕に現れ、温泉が湧き
出した――

古来から伝わる白龍伝説。
現在はきくち夏まつりの象
徴として、多くの人々に愛
され続けています。

いつの時代も人々に勇気と
誇りを与えてきた白龍。そ
の巨体に命を吹き込む人た
ちの思いに迫ります。



初代総代
岩永悦朗さん(神来)



三代総代
高宗政禎さん(栄町)



十三代総代
川口智秀さん(東正願寺)

みんなの願いを乗せて

夏まつりに白龍が登場したのは平成6年のこと。現在までつながる白龍の礎には、まちを盛り上げたい一心で奔走した人たちがいました。企画から誕生、そして継承へ。当時を知る人に白龍の歩みを聞きました。

【問い合わせ先】商工観光課 ☎0968(25)7223

まちの象徴を創りたい

「昭和の後半から菊池の活気に陰りが見えてね。市民が参加できる祭りでまちに活気を取り戻したかったんです」。市の商工観光課長だった渡邊幸彦さん（北宮）は振り返ります。この呼びかけに、青年会議所や商工会議所などの若手が応じます。「自分たちでまちの象徴となる祭りを創ろう」と、商工会青年部部長の樋口正博さん（東正願寺）や初代総代の岩永悦朗さん（神来）らを中心に平成5年、8団体が持ち回りで運営する「菊池祭りの再興を考える会」を結成しました。

「大勢で武者姿になり、菊池一族の合戦を再現しよう」「日本一大きい露天風呂を作り、お湯かけ祭りなんてどうか」。案が飛び交う中、ある参加者が「菊池は龍に関わる伝説が多い。龍門の地名もある。龍を使った祭りはどうか」と提案。「それだ！」と意気投合し、白龍伝説をもとに祭りを創ることになりました。まずは祭りの主役となる白龍神輿を製作。龍門地区の神龍八

担いだ龍が暴れまわる演舞は大好評でした。演出を担当した樋口さんは「龍が口から煙を吐き出すと、子どもたちは大喜び。大勢の人がまちにあふれてね。活気ある菊池を見て感無量でした」と目を細めます。

「でも、担ぎ手からは『重すぎる』と不満が出て。翌年から人集めも大変でした」と三代総代の高宗政禎さん（栄町）は記憶をたどります。苦勞もあつた初期。しかし、回を重ねるごとにまちに変化が生まれたと岩永さんは語ります。「喜びと苦勞を分かち合い、若手同士の交流が深まった。年を追うごとに参加者も増えた。白龍をとおして、市民の結束が強



白龍2年目はクレーンを使い龍の昇天を再現。1回限りで姿を消し、幻の演出となった



初代白龍が登場した平成6年の夏祭り「今、よみがえる白龍伝説の祭り」

大龍王神社に伝わる伝説をもとに、雄龍と雌龍の2頭作ることにしました。1体の大きさは全長約50㍎、重さ約600㍎。人海戦術を駆使して約2カ月間、延べ100人以上の人が手作りで仕上げました。「多くの人に参加してほしいという願いも込めて、日本一長い龍の神輿を作りたいかったです。後に長野オリンピックで50㍎の龍が登場しましたが、白龍は2頭いるから負けていませんよ」と樋口さんは笑います。

祭り当日は大盛況

満を持して臨んだ祭り当日。同会のメンバーら約120人が

まったと感じています」

将来を見据えた改革

現在の白龍は二代目で、平成18年に作り替えられました。「酷使してガタがきてしまつて修繕も大変でした。これを機に担ぎ手の負担を減らそうと、軽量化を図りました」と十三代総代の川口智秀さん（東正願寺）は振り返ります。頭部は造形専門の業者に発注し、軽量で頑丈なFRP（繊維強化プラスチック）を採用。精巧で丈夫な白龍に生まれ変わりました。「でも、装備を増やしたので重量はさほど軽くなかなかつたんです。誤算でした」

同時に取り組んだのは組織の改革。「菊池祭りの再興を考える会」の構成団体に所属していないと運営に参加しづらい雰囲気があったため、志のある人が参加しやすくなるよう白龍會を設立しました。子どもも参加できる祭りにしようと、平成17年には子白龍を製作。白龍は菊池の夏の象徴として進化していき

菊池の白龍伝説

伝説①

こんこんと水が湧く菊池から、大きな白龍が現れた。平安時代の延久2（1070）年、太宰府から新たな領主として菊池に来た藤原則隆は、幸せを呼ぶ吉兆龍と言われる白龍の出現に感激。この地をいたく気に入る、藤原から菊池と改姓。菊池一族の歴史が始まりました。



『まんが風雲菊池一族』の菊池から白龍が現れる場面

伝説②

夢枕に美しい白龍が現れ、その子どもの龍が湯けむりの中で戯れていた。昭和25年頃、商工会会長だった村川信彦氏の夢に白龍が出現。温泉湧出のお告げと信じて掘削を始め、見事に温泉を掘り当てました。日本名湯百選に選ばれ、今では菊池温泉として賑わいを見せています。

白龍、全国区へ

平成28年

◆浅草の商業施設「まるごと」で「ぼん」で開催された自治体対抗ふるさとステージで演舞



平成29年

◆横浜の日産スタジアムで、ももいろクローバーZのライブ「桃神祭」に出演

平成30年

◆東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京」に参加





8	5
	7 6

5_白龍會のメンバーと記念撮影 6_若龍に担ぎ棒を取り付ける 7_市役所正面玄関に展示中の儼小龍 8_子白龍を担いで町を練り歩く

3	2	1
4		

1_威勢よく若龍を担ぐ 2_若龍の製作風景 3_菊池北中学の運動会でお披露目された若龍 4_子白龍を担いだ子どもたち

白龍座談会



第二章 発展

郷土愛を次世代へ

いまや全国区になった白龍は、多くの人を魅了し続けています。白龍會の皆さんに、思いや展望を聞きました。

——白龍會に入ったきっかけを教えてください。

生田 商店街で生まれ育ち、だんだんまわりの元気が無くなる姿を目の当たりにしてきました。地元のために何か貢献したいと昔から思っていたし、勇ましい白龍の姿にも憧れていたんで、入会しました。
小池 消防団で祭りに関わっていたので、白龍は間近で見えていたんです。自分も担いでみたいと思い、まずはボランティアで担ぎ手として参加。そのまま、のめり込んでしまいました。
山下 私は洒水町出身で、実は白



二十一代総代
小池 幸一郎さん
(中町)

龍をとおして、郷土愛が次世代につながればうれしいですね。

——学校で授業をされていると聞きました。

生田 限府小学校と菊池北小学校で、白龍の授業や見学会をしました。質問もたくさん出て、関心が高く好感触でしたよ。今後も依頼があれば続けていきたいです。
小池 昨年からは菊池北小学校と菊池北中学校の合同体育祭を白龍會が訪問し、今年は生徒と一緒に演舞しました。みんなとても喜んでいて、白龍に興味を持ってきています。
山下 夏まつりに来ない子にも、白龍のことを知ってもらえるいい機会。地元のことを知るきっかけになってくれれば。

生田 限府小では子どもたちが自主的に白龍を模した「儼小龍」を作ってくれました。白龍を地域の象徴として選んでくれたことがうれしかったですね。

——東京ドームや人気アイドルとのコラボなど全国に活動の幅を広げています。

小池 都会に進出して多くの人の前で披露して、多くの人に知ってもらうことができました。知名度

龍を知りませんでした。幼稚園の先生をしているのですが、白龍會の人が保護者について誘われたのがきっかけです。

生田 小学生が担ぐ子白龍の担当を探していたので、子どもに慣れていた山下さんに白羽の矢が立ちました。

山下 白龍を知らなかったから、勢いで参加したんです。軽く手伝うつもりだったのに、携わってみたら最高に楽しくて。どっぷり浸かっちゃいましたね。

小池 現在、会員は50人ですが、女性は4人だけ。男ばかりで苦勞もあるだろうけど、頑張ってくれて助かっています。

山下 女性の幹部は初なので緊張はしたけど、白龍會の人はみんな優しく楽しく活動しています。

——今年、中高生が担ぐ若龍が登場しました。

小池 これまで中高生が参加するが上がることで身が引き締まるし、より責任感も生まれます。
生田 でも、私たちに比べて一番大事なのは地元です。地に足を付けて、あくまでも菊池のために活動していくつもりです。

——今後の展望を教えてください。

小池 白龍をとおして得た経験や人とのつながりは宝物であり財産です。白龍によって若い世代や子どもたちの交流が深まり、菊池と他の地域の関わりも増えました。まちが盛り上がるように、これからも人の輪を広げていきたいです。
山下 子白龍を担いだ小学生が何人も「とても楽しかった」「来年も担ぎます」と言ってくれました。子どもから大人まで、いろんな世代に楽しんでもらえる存在にしたいです。

生田 進学や仕事で菊池を出てしまつのは仕方ありません。でも、



子龍頭
やました 山下みどりさん
(富の原一)



二十二代総代
生田 圭さん
(横町)

機会がなかったんです。何とかしようと思ひ、企画しました。

生田 子白龍を担いだ子が若龍に携わり、大人になって白龍を担ぐ。一貫性を持たせたかった。話はトントン拍子で進みました。

山下 まず、子どもたちに魅力や楽しさを知ってもらうことが重要です。外から見ても楽しいけれど、やはり一度担ぐと感情が揺さぶられるし、気持ちも深く入ります。もっと白龍を好きになるかもしれません。

小池 今年は各学校にも声をかけて参加者を募りました。市外からも担ぎに来てくれたんですよ。

生田 子どもたちも一緒になって、菊池を盛り上げたい。幼いころから地元の活動に関わることで、ふるさとへの愛着も深まるはず。白

「白龍がある日は地元へ帰るぞ」と思えるような存在でありたいです。まだ誕生から24年。この流れを続けて、「菊池の伝統」として未来に受け継がれる存在になってほしいですね。



菊池さん一家と前総代の小池さん(中央)

白龍こぼれ話

担げなかった白龍と間近で対面

愛媛県の菊池さん一家は大の白龍ファン。平成29年のきくち秋まつりで白龍を担ごうと訪れた際、雨で中止となり願ひは叶いませんでした。それを知った当時の総代・小池さんは「せっかく来てもらったのだから」と一家に連絡。白龍を神輿庫から出して間近で見てもらいました。白龍會の粋な計らいに菊池さん一家は大喜び。菊池のことが好きになり、今年の夏まつりにも遊びに来てくれました。

白龍図鑑

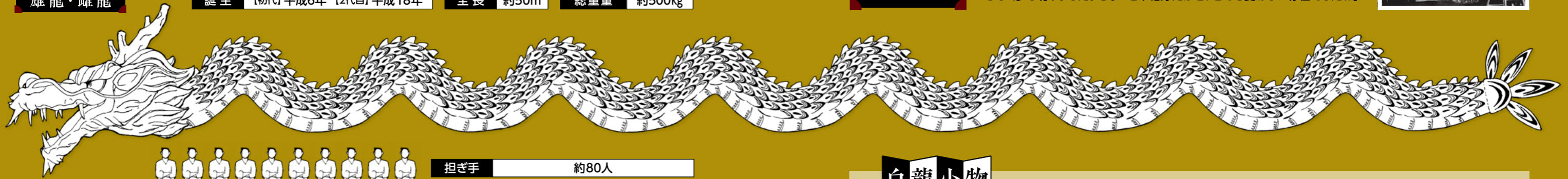
データや裏話、白龍まつわる小道具たち。白龍の詳細を大公開!

作画：東 耕平さん(菊池市地域おこし協力隊)

お りゅう め りゅう

雄龍・雌龍

誕生 【初代】平成6年 【2代目】平成18年 全長 約50m 総重量 約500kg



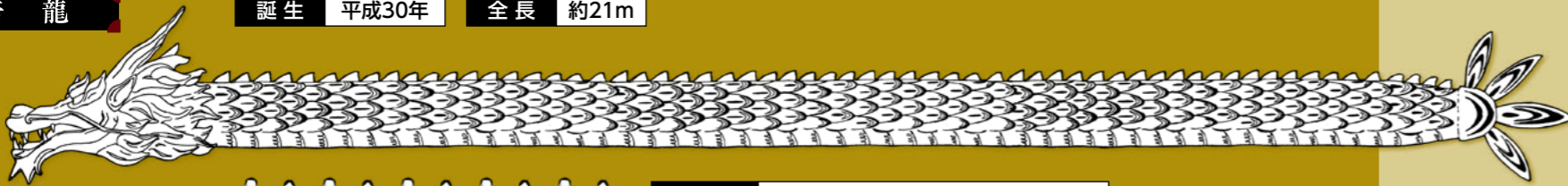
担ぎ手 約80人

×8 2頭合わせて約160人。交代人数を入れると約200人。頭部に乗る人は龍魂と呼ばれています。

祭りの主役は二対の白龍。金色が雄、銀色が雌です。

若龍

誕生 平成30年 全長 約21m



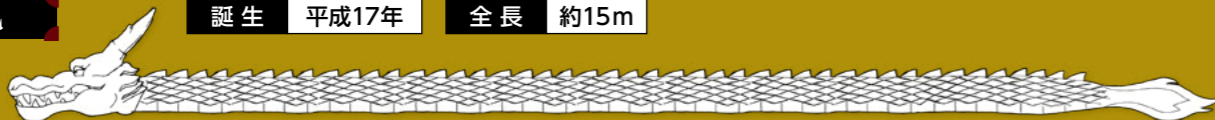
担ぎ手 約50人

×5 約100人が2班にわかれて、交代しながら担ぎます。

今年から登場。中高生が威勢よく担ぎ、祭りを彩ります。

子白龍

誕生 平成17年 全長 約15m



担ぎ手 約40人

×4 小学3年生約20人がお囃子で参加。4年生以上の約60人が交代で担ぎます。

元気いっぱいな小学生が、小さな手で懸命に担ぎます。

初代白龍 製作秘話

県のコンペで150万円の補助金を獲得するも、二体の胴体だけで制作費は120万円。頭部の資金が足りなくなり、建築士の江里口善久さん(巨)が手作りの白龍を設計しました。「チリ紙を濡らし、糊で骨組にペタペタ貼り付けました。祭りまで残り2カ月なので、毎日みんなで深夜まで作業です。なんとか間に合いホッとしました」と明かします。「実は保管場所にツノが入らず、やむなく少し切りました。ちょっと不格好だけど、とても愛おしい存在でしたね」



白龍小物

会場で買えるグッズから、担ぎ手や総代しか持てない貴重な品々。その一部を紹介します。



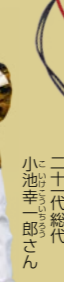
タオル

二対の白龍や騎馬像、花火など。菊池満載のデザイン。夏まつり当日のみの販売です。



扇子

総代が持つ扇子。今年の生田総代は前総代から譲り受けたものを使用。



二十二代総代 小池幸一郎さん



札

a_ 代々受け継ぐ総代の木札。鮮やかな光沢は、漆を何重にも塗ることで出している。b_ 担ぎ手に配られる札。白龍の絵も凝っている。c_ 子白龍を担いだ小学生が貰える木札。

担ぎ手の声

若龍に子白龍。若い世代の担ぎ手により、白龍は未来に継承されていきます。



白龍がつなぐ親子の絆

白龍會役員 川口純範さん(北宮)
限府小学校5年 晴士さん

親子で参加しました!

晴士さん 白龍會を引っ張る格好いいお父さんを見ていたので、一緒に参加したかったです。友達と励まし合いながら担いだので、重さも大丈夫。来年も出たいし、中学生になったら若龍を担ぎたい!
純範さん 息子が「一緒に出たい」と言ってくれました。私も子どもの頃に地元の祭りに参加して地域に愛着を感じていたので、息子も白龍で郷土愛を深めてくれたらうれしいですね。



初めて担いだ子白龍は最高

菊池北小学校4年 山口さらさん(遊蛇口)

子白龍を担ぎました!

お父さんが担ぐ姿を見て憧れていました。初めての子白龍は、予想より重くて大変。でも、担いだ後に締める手拍子「白龍一本」が楽しかったです。走って蛇行する場面は転びそうになったけれど、とても気持ち良かったです。妹と一緒に参加できる日が待ち遠しいです。



市外から参加 貴重な経験になりました

菊池農業高校3年 伊藤仁一さん(合志市)

若龍を担ぎました!

お祭りや地域活動、ボランティアに興味があったので、一人で応募しました。他校の生徒ばかりで心細く緊張したけれど楽しめました。担いだら肩にずっと重みがきました。大きな白龍を担いで走り回る大人の人たちはかっこよかったです。3年生なので、若龍を担ぐチャンスは最初で最後。同世代の人たちと感動の時間をともにし、良い経験ができました。





「第3章 つなぐ」

進化しながら伝統を守る

「地域に受け入れられ、白龍を軸にして人やまちが成長しています。若い世代が菊池のため全力で活動してくれたおかげですよ」。三代総代を務めた高宗さんは、優しい目で活躍を見守ります。

初代総代の岩永さんも「白龍は作った我々のもとを離れて成長を続け、さらに進化しています。平成生まれの祭りだけど、伝統として次世代に継承されはじめています。将来、孫が担いでくれたらうれしいよ」と思いを馳せます。

白龍は多くの龍の伝説に登場する「玉」を持っていません。「玉に操られず、意思を持って自由に動いてほしい願いを込めました」と樋口さん。「龍は変化の象徴といわれます。白龍會の若者にも自由に活動してもらい、今後もアツと言わせる変化を期待しています。ひるまず進化を続け、菊池を牽引してほしい」とエールを送ります。

まちの未来を支える担ぎ手に

白龍をかつこよく担ぐお父さんの姿に憧れて。勇ましい白龍を間近で見ると担ぎたくなったり。今回の取材では、白龍に憧れる人たちの思いを多く聞きました。今や活動の場を全国に広げ、インターネットやSNSの力もあり露出も増加。知名度も高まり、幅広いファンを獲得しています。

しかし、白龍會の人たちが大切にするのは、地元の人づくり。学校を訪問したり地域のイベントに参加したりして、まちに関わる人を増やすべく地道に活動を続けています。

子どもたちは「菊池を元気にしたい」大人たちの背中を見て、郷土愛を育んでいます。その子どもたちが将来、まちを支える担ぎ手になってくれることでしょう。かつて白龍を作った先人の思いは、確実に未来へ受け継がれています。

地域と世代をつなぐ白龍は、これからも舞い続けます。大勢の人たちの思いを乗せて。

これからも白龍と生きる



QRコードは動画が見られます。